

「キヌヒカリ」の出穂後の気温が白未熟粒の発生に及ぼす影響

[研究のねらい]

本県の主要品種である「キヌヒカリ」は心白粒、乳白粒の発生が多く、玄米の外観品質が劣ることから品質向上が求められています。米の品質を決定する要因の一つである出穂後の気温に着目し、移植期の変動に伴う出穂後の気温の変化が玄米の外観品質に及ぼす影響を検討します。

[研究の成果]

- ①6月中下旬移植の玄米品質は、5月下旬移植に比べて白未熟粒（心白、乳白、腹白、背白、基部未熟粒の総称）の発生率が低くなります（表1）。
- ②白未熟粒の発生程度と出穂から出穂後20日間の最低気温の平均値との間には相関がみられ、この時期の気温が低いほど外観品質は良くなります（図1）。

[成果の活用面・留意点]

- ①本成果は試験場内で「キヌヒカリ」について同一耕種法で調査した結果であり、土壌条件や肥培管理等により白未熟粒の発生程度は変わります。

表1 移植期が生育および収量、収量構成要素に及ぼす影響

移植期 (月.日)	出穂期 (月.日)	精玄米重 (kg/a)	穂数 (本/m ²)	籾数 (千粒/m ²)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	白未熟粒 発生率 (%)
5.27	7.29	61.4	361	28.7	23.2	92.1	22.4
6.11	8.8	65.4	376	32.0	22.7	89.9	14.0
6.23	8.20	59.4	330	31.4	21.9	86.4	10.3

注)試験年次:2004(平成16)年度、施肥量:1.0kgN/a(基肥0.5kg、追肥0.25kg×2回)
栽植密度:16株/m²(25cm×25cm)、手植え

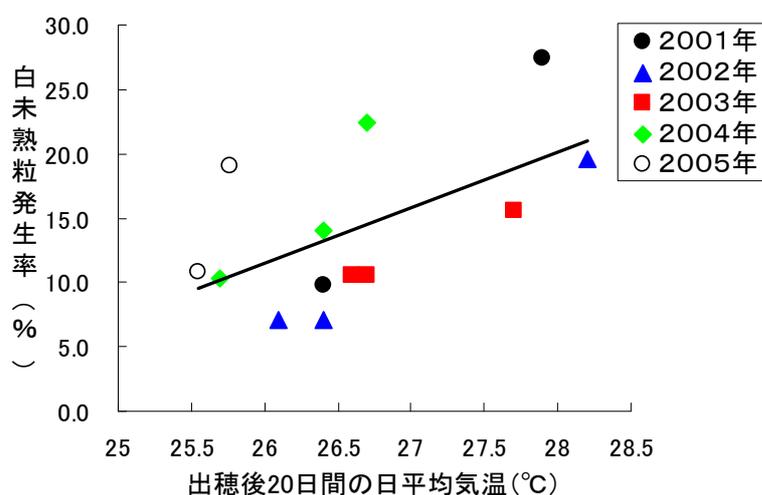


図1 出穂後20日間の気温と白未熟粒発生割合との関係



図2 心白粒(左上)、乳白粒(右上)、腹白粒(左下)、基部未熟粒(右下)

実施年度：平成13～17年度

担当者：宮本芳城、川村和史、浅井良裕、垣内仁、森本哲矢